

■原子力耐震・構造研究センターに係る平成 24 年度の実績と平成 25 年度の計画

平成 24 年度の実績	平成 25 年度の計画(案)
<p>(1)原子力耐震・構造研究センターの主な活動</p> <p>a) 主な活動</p> <p>平成 24 年 8 月 1 日 第 6 回 原子力耐震・構造研究センター研究協議会開催</p> <p>平成 24 年 11 月 7 日～9 日 第 2 回大深度地震動観測とその活用に関する国際ワークショップ開催</p> <p>平成 24 年 11 月 10 日 市民公開講座・施設見学会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 3者共同で見学者対応・シンポジウム対応・発電所視察対応を実施 <ul style="list-style-type: none"> ● 平成 24 年度 見学受入者数 558 人 <p>平成 25 年 3 月 27 日 新潟工科大学、JNES 地震・津波等外的事象に対する原子力防災に関する国内外の活動報告と TiPEEZ によるデモンストレーション</p> <p>b) 研究センター広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターパンフ(日本語版)の作成 <p>c) 研究協議会・安全研究委員会の開催(年 2 回程度を予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年 8 月 第 6 回「研究協議会」 ・平成 25 年 3 月 第 7 回「研究協議会」及び第 5 回「安全研究委員会」開催 <p>d) 事務局ミーティングの定例開催(研究協議会を補完):5 回開催</p>	<p>(1)原子力耐震・構造研究センターの主な活動</p> <p>a) 平成 25 年度後半 IAEA/ISSC EBP の成果報告に関する国際会議</p> <p>b) 市民見学会開催</p> <p>c) 研究協議会・安全研究委員会の開催(年 2 回程度を予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年 9 月 第 8 回「研究協議会」及び第 6 回「安全研究委員会」開催 ・平成 26 年 3 月 第 9 回「研究協議会」及び第 7 回「安全研究委員会」開催 <p>d) 研究センター広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターホームページの立上げ、センターパンフ(英語版)の作成 <p>e) 事務局ミーティングの定例開催(研究協議会を補完):年 6 回程度</p> <p>f) 柏崎市地域防災計画への協力</p>
<p>(2)耐震安全研究と情報発信</p> <p>1)国内</p> <p>①共同研究</p> <p>【新潟工科大学とJNESの共同研究】</p> <p>テーマ 1:原子力リスク情報の分かりやすい伝達に資する情報伝達モデル「柏崎・刈羽モデル」の拡張に関する研究</p> <p>テーマ 2:き裂を有する配管の地震とき裂進展評価手法の高度化に関する研究</p> <p>テーマ 3:3 次元免震床の性能確認に関する研究</p>	<p>(2)耐震安全研究と情報発信</p> <p>1)国内</p> <p>①共同研究</p> <p>【新潟工科大学とJNESの共同研究】</p> <p>テーマ 1:原子力リスク情報の分かりやすい伝達に資する情報伝達モデル「柏崎・刈羽モデル」の拡張に関する研究《発展的継続課題》</p> <p>テーマ 2:地震・津波等外的事象に対する原子力防災に関する研究《新規課題》</p> <p>テーマ 3:き裂を有する配管の地震とき裂進展評価手法の高度化に関する研究《発展的継続課題》</p> <p>テーマ 4:3次元免震床に関する研究《発展的継続課題》</p> <p>【新潟工科大学と東京電力の共同研究】</p> <p>共同研究体制を継続して維持し、産学連携による外部資金の獲得を目指し、協議する。</p> <p>【他の原子力立地地域との共通研究テーマ設定とワークショップ開催】《新規課題》</p> <p>WA10. 原子力リスクコミュニケーション(平成 25 年度後半)</p> <p>【日本海における津波に関する国際的観点からの検討】《新規課題》</p>

平成 24 年度の実績	平成 25 年度の計画(案)
<p>②共同研究を支える個別研究</p> <p>a) 耐震安全研究</p> <p>H23 年度までの成果にもとづき、柏崎刈羽地域の特徴を活かした発展的研究を実施した。</p> <p>A. 地震・地震動研究：研究成果の IAEA 基準への反映を図った。</p> <p>B. 深部地盤での地震動観測研究：研究成果の IAEA 基準への反映を図った。3000m 深部地震動観測開始及び同観測データの防災科研への提供開始、国際 WS の開催。</p> <p>C. 建屋床柔性研究：福島第一原子力発電所事故のクロスチェック解析へ反映。</p> <p>D. プラント耐震裕度研究：上記①テーマ 2、テーマ 3 で実施。</p> <p>E. 情報伝達、原子力リスクコミュニケーション研究：研究成果の IAEA 基準への反映を図った。上記①テーマ 1 で実施。</p> <p>b) 耐震安全の研修技術の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本原子力学会 社会・環境部会 優秀発表賞 受賞 「原子力災害の再発を防ぐ(その3) 地震工学分野から原子力安全への提言」 亀田弘行(京都大学)、高田毅士(東京大学)、蛭澤勝三(JNES)、中村晋(日本大学)、日本原子力学会誌 Vol.54, No.9(2012), p.593-600 ・中越沖地震における柏崎・刈羽原子力発電所及び東北地震・津波や福島第一原子力発電所事故に係る知見を収集すると共に教材として整理した。 <p>2) 海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IAEA/ISSC EBPに新潟工科大学がドナー登録。 ・平成25年1月 IAEA/ISSC EBP ドナー会議にて地域原子力災害対策の支援計画の発表を行った。 <p>(3) 人材育成</p> <p>1) 国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 月 大学院博士前期課程「発電工学特論」開講 ・10 月 同 「エネルギー工学特論」開講 <p>2) 海外</p> <p>耐震センターでの情報交換のほか、地元柏崎市長、刈羽村長等との意見交換の場を設定するなど、国際研修の場として定着が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年 7 月 17 日 IAEA/JICC 共催アジア研修受入れ (7 カ国 10 名) ・平成 24 年 12 月 14 日 JNESベトナム VARANS 研修受入れ (3 名) ・平成 25 年 3 月 海外インターンシッププログラム立ち上げのための米国調査(米国原子力規制委員会 [NRC]、米国連邦緊急事態管理庁[FEMA]、カルバート郡及びメリーランド州政府・環境局) 	<p>②共同研究を支える個別研究</p> <p>a) 耐震安全研究</p> <p>H24 年度までの成果にもとづき、柏崎刈羽地域の特徴を活かした発展的研究を実施する。</p> <p>A. 地震・地震動研究：研究成果の IAEA 基準への反映を図る。</p> <p>B. 深部地盤での地震動観測研究：深部地震動観測データ等の国内外の機関(IAEA、防災科研、気象庁等)への提供により、データの多角的な活用を図る。</p> <p>C. 建屋床柔性研究：耐震安全技術手法の高度化への活用。</p> <p>D. プラント耐震裕度研究：耐震安全技術手法の高度化への活用。上記①テーマ 3、テーマ 4 で実施予定。</p> <p>E. 情報伝達、外的事象原子力防災・原子力リスクコミュニケーション研究： 上記①テーマ 1、テーマ 2 で実施予定。</p> <p>b) 耐震安全の研修技術の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中越沖地震における柏崎・刈羽原子力発電所及び東北地震・津波や福島第一原子力発電所事故に係る知見を収集すると共に教材として整理し、研修での活用を図る。 <p>2) 海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IAEA/ISSC EBP 技術文書 TECDOC”TiPEEZ システムの適用“作成に協力 <p>(3) 人材育成</p> <p>1) 国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年 4 月 大学院博士前期課程「発電工学特論」開講 ・平成 25 年 10 月 同 「エネルギー工学特論」開講 ・地域の安全安心創造のための地域原子力防災専門人材育成事業に関する取組の具体化 <p>2) 海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外インターンシッププログラム実施による教育効果を明確にし、試行する(基礎教育、米国原子力規制委員会[NRC]、米国連邦緊急事態管理庁[FEMA]、カルバート郡及びメリーランド州政府・環境局等を候補) ・アジア耐震安全研修を定期的(年1回程度)に開催 ・ベトナム研修(年1回程度)開催